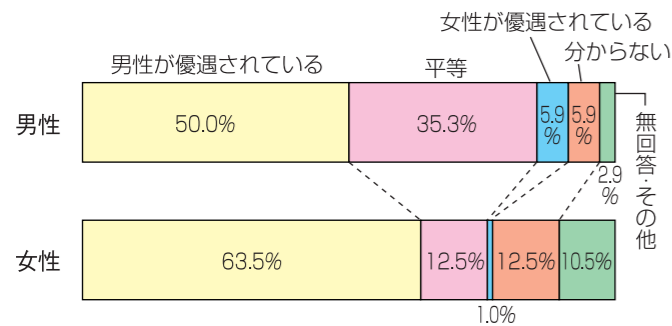


# 「フォーラム2005」参加者の声

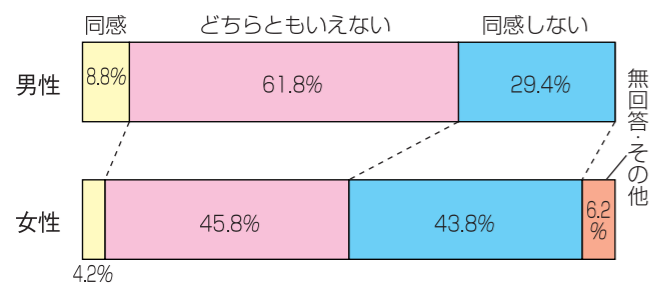
今年の男女共同社会フォーラムには、総勢181名（女性125名、男性56名）の皆様にご参加いただきました。参加者の方々にご協力いただいたアンケートの結果をお知らせいたします。

アンケート回答者130名（女性96名、男性34名）

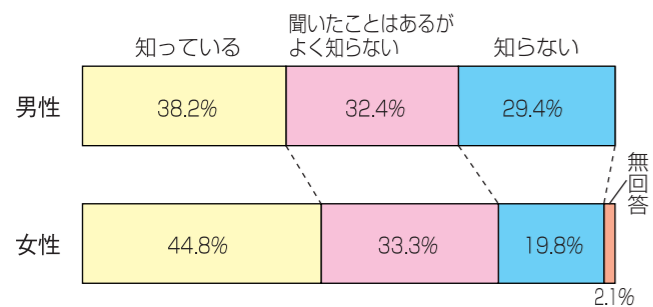
## 男女の地位は平等になっていると思いますか？



## 「男は仕事」「女性は家庭」という考え方についてどう思いますか？



## 「はだの市民が創る男女共同社会推進会議」を知っていますか？



## お答えいただいた意見

- \* 年代によって男女共同社会における関心度に差があると感じた（40代男性）
- \* なぜ女性の社会進出が少ないのかもっと具体的に掘り下げるべきだと思う（70代男性）
- \* 社会は目まぐるしく変わっていくのに男女のあり方に対する意識は全く変わらないように感じた（50代女性）
- \* 自分自身、意識改革が出来ていないことに気づいた（30代女性）
- \* 平等が必ずしも良いわけではなく、子供を産み育てる女性は大切にされたい。休暇取得に関して会社で文句やいやみを言われたいようにしてほしい（40代女性）

# 平成17年度 男女共同参画社会づくりに向けての 全国会議報告



6月24日（金）東京厚生年金会館で行われた「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」に、はだの市民が創る男女共同社会推進会議の委員2名が参加しました。男女共同参画推進本部長の小泉首相の主催者あいさつに始まり、男女共同参画週間中に行われた各賞の受賞者及び功労者の紹介、基調講演、シンポジウムというプログラムで開催されました。

基調講演の「女性の新たなチャレンジに向けて」シンポジウムの「男女共同参画を考える～北京から10年の新たなチャレンジ～」というテーマに表されるように、男女共同社会は歴史の積み重ねの中で変化してきていることがうかがえました。また全国から参加された方々の熱心さと真剣さを通して、秦野市での活動を活性化していくための活力を得る機会となりました。



6月24日 東京厚生年金会館

## ゆめ育て 人を育てる 共同参画

### 男女共同参画週間啓発活動を実施

男女共同参画週間（6月23日～29日）にちなんで、6月26日（日）ジャスコ秦野店において、啓発活動の一環として「はだの市民が創る男女共同社会推進会議」のPRをしました。午前11時から正午まで、人と人の心が通い合う男女共同社会への思いを込めて、一人



ジャスコ秦野店で啓発活動

でも多くの方に理解していただくために、チラシとボールペンを650部配布しました。チラシの裏面には女性相談室のお知らせも載せています。

### 女性のための悩み相談

相談日：毎月第2・4火曜日 午前10時～正午・午後1時～3時  
 電話相談：専用電話（83）1812  
 面接相談：予約制。予約は、市民活動推進室で随時受付中。  
 相談場所：女性相談室  
 【市民活動サポートセンター（青少年会館内）】  
 ※問い合わせ 市民活動推進室 TEL(82) 5111

### 編集後記

自然豊かな我が街で、健康で心豊かに生活していますか？「食」は、健康づくり、仲間づくりとされています。生活の多様化に伴い、家族一人ひとりが多忙に過ごしている中、家族とともに食卓を囲む時間を、一日で最も楽しいひとときにしたいものですね。

# 男女共同参画社会をめざす情報誌



### 主な内容

- 秦野市食生活改善推進団体
- はだの男女共同社会フォーラム2005
- 男女共同参画週間啓発活動



食生活から健康づくり  
心豊かな生き生き社会へ

男性も女性も互いに助け合い、自立した生活を送るために、まずは食生活を見直してみよう？命の源「食」をきっかけに、みんなが健康な社会をめざし、活動する秦野市食生活改善推進団体を取材しました。

同団体（会員数現在212名）は、昭和36年に結成され、生活習慣病の予防・野菜ヘルシー料理講座・高齢者のための食生活講習会・男性料理教室など地域社会で活動を続けています。

7月14日に保健福祉センター調理室で今年度の秦野市食生活改善推進員養成講座が開かれました。この日のテーマは「高齢者のそしゃく機能と食事のポイント」。受講生の皆さんは笑顔を絶やさず、しかも真剣に調理に取り組んでいました。今回を含めて

秦野市食生活改善推進団体は、市制50周年を記念して「おいしく・楽しく・健康に」をモットーに、秦野地場産野菜を使った料理レシピ本『はだの日和』を発行しました。子どもからお年寄りまで「食」を柱とした健康づくりに役立つこの本は、**じばさんず**で販売しています。

全13回の講座を受講後にボランティア活動を希望する方が同団体の会員となり、活動することになります。受講生からは、「自分の作る料理の塩分を気にするようになった」と好評です。

榎本喜美江会長は、「食生活の改善を通して、『私たちの健康は私たちの手で』というスローガンとともに、『お隣さんお向かいさん』から健康づくりをしていき、お互いに思いやる心を広げていって大きな輪になるでしょう。自分が健康で家族も健康、さらに同じ目的と価値観を持った仲間がいるということは素晴らしいことですね。」とさわやかな笑顔で語っていました。

食生活を通して、みんなが心豊かに生き生きと生活できる社会になっていくといいですね。

2005. 9. 1 発行 No.24

発行 はだの市民が創る男女共同社会推進会議  
 事務局 秦野市役所企画部市民活動推進室市民活動支援班  
 秦野市桜町1-3-2 TEL0463-82-5111  
 FAX0463-82-6793  
 e-mail s-katudo@city.hadano.kanagawa.jp

# 私が望む男女共同参画社会

6月26日(日)本町公民館において、「はだの男女共同社会フォーラム2005」を開催しました。今回は、「私が望む男女共同参画社会」と題して基調講演、分科会、全体会と三部構成でおこないました。基調講演、全体会の講評は、はだの男女共同参画プラン後期基本計画策定委員のおふたりの先生をお迎えしました。

## Ⅰ 基調講演



「一人ひとりが自分らしく

～私が望む

谷岡理香氏

男女共同参画社会～」(東海大学文学部広報メディア学科助教授)

私は20年ほど放送局で仕事をしておりましたのでメディアと男女共同参画というところからお話をさせていただきます。

小さいときはテレビで何とかレンジャー、中学校時代は友達と話を合わせるために同じ番組を見て、高校になると雑誌やインターネット、音楽、ラジオなど自分でメディアを選ぶようになります。そう考えていくと、特に子どもから大人までの成長過程で大きな影響を与えるのは家庭・家族、学校、そして三つ目にメディアがあると言われています。放送界で働く女性の割合は、民放で20.7%、NHKは約10%、新聞も11.7%しかいません。

メディアが提供する日々の情報は、作り手が選び取ってくるものです。例えば新聞に登場する女性は見られる対象とされていることが多いのは、まさしくある価値観しかない男性の視点ではないでしょうか。

またメディアが社会に与える影響が大きいということは国連も認めています。その中で、豊かな社会づくりのためには、メディアには多様な人たちが描かれることが望ましく、そのためにはメディアの送り手側にもいろいろな立場の人、さらには決定権を持つ女性が増えることが望ましいと提言しています。しかし日本の現状は非常に遅れているようです。

先日、大学でタイの留学生が「テレビがデジタルになることによって、目の見えない人、耳の聞こえない人、ハンディキャップのある人たちはどんなことができるようになるでしょうか」とNHKの教育番組プロデューサーの方に質問していました。目も見えて、耳の聞こえる人には当たり前のことですが、ちょっと違った立場の人のことを考えることが男女共同参画の姿ではないかと思いました。(一部抜粋)

## Ⅱ 分科会

### 第1分科会

#### 政治・行政への女性の参画

参加者15名(男性8名、女性7名)

- ① 大磯町の女性議員の割合が50%なのに秦野市は14.3%。この差は何なのか。  
・秦野市では所属に属さない女性が当選しにくい現状があるのではないか。
- ② 企業戦士が家庭に二人いることになると、家事や育児などはどうするのか、と男性は考えがちだが、家事も育児も介護も基本的な考えは男女共同でやることと考えてほしい。  
・女性も被害者意識をなくして、意欲を持って参画すべき。

### 第3分科会

#### 職場における男女共同参画

参加者20名(男性9名、女性11名)

- ① 女性には派遣やパートで安く働いてもらって、それで成り立っている職場が多い。  
・女性も気楽ですぐ辞めやすい仕事を選んでいないか。  
・育児休暇が取れるようになったので女性が長く働けるようにはなったが、男性は取ると職場に戻りにくい現状がある。
- ② 家庭、地域、会社、社会といった大きな枠の中で子育てを支え、女性の職場参画を支えていく。  
・相手の話をよく聞きお互いを思いやる心がけから始める。  
・会社に縛られない意識を持つ。

### 第5分科会

#### 学校の中の男女平等教育

参加者21名(男性8名、女性13名)

- ① 男の子なのだから…、女の子なのだから…というのは大人側から与える影響だ。  
・子ども自身よりも親側の問題がまだ大きい。子育て、教育は母親だとの観念があり、PTA懇談会に父親の出席が少ない。
- ② 「おやじの会」を立ち上げ、父親同士の交流、子どもと子どもを取り巻く学校・地域への参画が形になって動くところが増えてきた。  
・企業戦士のイメージが強い男性が子育て中心の立場を取りたくても難しい現状がある。社会全体が改革できるよう、一人ひとりが声を出して動くことが必要である。  
・子どもに自分らしさを発揮できる心を育てることが大切である。固定された価値観に振り回されない自分づくりを教育の中に取り込む必要を感じる。

## Ⅲ 全体会 ★発表 ★講評



発表する参加者

各分科会で話し合われた内容を発表したあと、大山七穂氏(東海大学文学部心理・社会学科教授)に講評をお願いしました。以下は大山氏の講評の一部です。

男女共同参画社会の形成に向けて、皆さまからいろいろご提案をいただきましたが、三つの視点から大きくまとめることができると考えます。一つは、相手に対する思いやりやお互いの声に耳を傾けるといった個人レベルでできること、二つ目として家庭や教育、職

### 第2分科会

#### 家庭・家族の男女共同参画

参加者46名(男性9名、女性37名)

- ① 家事、育児は男がすべきことではないといった男女・年代での意識差が大きく、根強い問題だ。  
・「仕事もしていないのに」と言われそうで、男の人に分担を頼みにくい。  
・仕事をしているほうが楽という女性が増えているような気がする。
- ② 「やってあげる」のではなく相手の立場に立って協力し、感謝を表す。  
・夫婦が協力する姿を子供たちに見せていきたい。

### 第4分科会

#### 地域社会における男女共同参画

参加者39名(男性13名、女性26名)

- ① 女性が自治会役員で働こうとしても、意見として取り上げてもらえない。  
・逆にPTA役員、子ども会役員は、母親中心で父親が参加しようとする意識は低い。  
・自治会、婦人会の会議は夜に開かれることが多いので夕食の準備や片付けをしてから出席しているので負担が大きい。
- ② お茶くみを女性に任せるのは差別だと申し入れたところ、認められ、その後は正された。女性が積極的に声や姿勢に出して動くことが互いの理解や認識を深めると感じる。

### 第6分科会

#### 女性の権利・性が尊重される社会

参加者26名(男性2名、女性24名)

- ① 今までの家庭・家族に対する価値観が変わってきたため、一人ひとりが自信を持っていないのではないかと。  
・DVの要因は家庭内だけではない。  
・女性専用車両導入は問題の根本を解決していないのではないかと。
- ② 家族というコミュニケーションの場で人とのやり取りを培う。  
・自分自身の心と体を大切にできる人を育てること。  
・平等とは全て同じものを与えることではなく、その人自身に機会を均等に与えて成長する場を確保できる社会のシステムづくりをすることではないかと。  
・マスメディアの過剰な性に対するあおりを規制する必要がある。

本音で語りあえる  
自分探しこそ  
共同参画



熱心に語り合う参加者たち



大山 七穂氏

場等それぞれの領域における環境整備、システムづくり、そして三つ目として家庭と教育、地域社会など、領域を超えた相互連携、および県や国レベルとの連携です。「個人化」「リスク化」「二極化」が進む社会の中で、よりよい男女共同参画社会を目指して、皆さまからのご意見を参考にプランの策定を進めていきたいと思います。